会　議　録

１　会議名

令和８年度　第５回金谷区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

〇報告事項（公開）

・上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組案について

・市民の消火栓使用について

〇自主的な審議（公開）

・金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせ！！について

３　開催日時

令和８年８月１２日（水）　午後６時３０分から午後７時５０分まで

４　開催場所

金谷地区公民館　集会室１・２

５　傍聴人の数

２人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）

・委　員：村田会長、長副会長、阿部副会長、淺野委員、小竹委員、小林委員、白石委員、滝澤委員、星野委員、宮越委員、吉野委員

（欠席３人）

・資産活用課：丸山係長、長ケ部主事

・事務局：南部まちづくりセンター　稲田所長、小池副所長、荒川係長

８　発言の内容

・会議録の確認：星野委員と宮越委員に依頼

【議題：報告事項　上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組案について】

■ 説明

・資産活用課から、公共施設等総合管理計画に基づく取組案について説明が行われた。

・利用実態や働き方改革の観点から、開館時間は原則午前９時から午後９時まで、休館日は最低週１日とする方針が示された。また、稼働率の低い時間帯や期間の休館、施設職員の非常駐化等を検討することが説明された。

・対象となる２２３施設のうち、開館時間の短縮等を行う施設が１７２施設、休館日の見直し等を行う施設が１８６施設となり、２２０施設で何らかの取組を実施する予定であることが説明された。

・使用料については、現行料金に改定率を乗じた上で原則１００円単位とし、市民以外の利用は２倍、営利営業利用は３倍とする案や、３０分単位利用の導入を検討していることが説明された。

・金谷区内の対象施設について、学校開放体育施設、金谷地区公民館、中ノ俣地区多目的研修センター、日本スキー発祥記念館等の開館時間、休館日及び使用料の見直し案が示された。

・今後は利用者や施設管理者との協議を経て、９月から１０月に諮問・答申手続きを行い、１２月議会への条例案提出、翌年４月施行を目指すことが説明された。

■ 質疑応答

・質問／意見：日本スキー発祥記念館を管理する歴史博物館に、昨年度の利用実態を聞いたところによると、年間入館者数２，８３４人のうち有料入館者が８８５人にとどまっているそうである。平均すると有料入館者数は１日約３人ということになる。一般入館料は値段が下がることになるが、高校生は値上げで２５０円払わないといけない。これでは高校生は入らないと思う。一方、施設管理費は年間約５２１万円ということで、計算すると施設管理に１日平均約７，０００円かかっている。それに対し入館料収入は年

間で約４１万円と少ない。建設費は減価償却していって、コストに入っていないとしても、せっかく市民のために多額の建設費をかけて作った施設がこれではもったいない。利用者の少ない施設で入館料を引き上げても効果は乏しく、むしろ料金引下げや涼み処としての無料開放、周知強化等により利用者増を図るべきではないか。

→回答：高校生から見れば、利用料が上がってしまうので、その点は検討の余地があると思う。博物館ということで、民間施設のコストパフォーマンスだけでは測れない部分はあるが、利用者増は重要な課題であり、博物館施設では周遊企画等も実施しているが、利用者への周知を図る余地は正直あると施設所管課も考えていると聞いている。委員の意見を所管課へ伝え、料金設定や利用促進策について引き続き検討する。

・質問／意見：一般体育館や公民館の利用率は１０年前と比較してどの程度減少しているのか。また、施設ごとの利用実態を把握した上で見直しを行っているのか。

→回答：施設種別ごとの詳細な比較データについて本日は手元にないが、全体の話をすると、市内の約６００施設の１０年前からのデータを把握している。施設白書を見ていただくと、全体の利用者数が平成２６年度と令和６年度で約３割減少している。例えば、金谷区の中ノ俣地区多目的研修センターでは、平成２６年度１，３０３人の利用者数であったが、令和６年度は１，１０６人で約１５パーセント減少している。人口減少も背景にあり、利用実態を踏まえながら見直しを進めている。

・質問／意見：各所管課では施設ごとの収支やコストを把握しているのか。

→回答：施設白書の表の中で各施設の公費負担額という欄があるが、各施設の収支や税負担額は、毎年度把握している。建設コストは入ってないが、これに基づき使用料の算定を行っている。

・質問／意見：ある程度財政課主導で複式会計によるコスト計算はやってきていると思うが、今はそれはやってないのか。

→回答：やっている。

・質問／意見：コスト計算が料金値上げの上でどの程度考慮されているのか。一律の倍率で使用料を引き上げる方法では施設ごとの実態が反映されないのではないか。例えば利用者が少ない、または老朽化した施設を一律で扱うと、現実に合わなくなる。値上げ幅を大きくすると、利用者がさらに減って減収になり、市の負担増になる可能性がある。日本スキー発祥記念館については、現行が４６０円で、改定後は上げるほどではないため４５０円になるということだが、もともと４６０円の単価設定が間違っていたとも言える。現時点で有料利用者がそれほど多くないのは地元の人間として感じていて、値上げして意味があるのか疑問だ。例えば、日本スキー発祥記念館がもっと入館者を増やすために、入館料を一律１００円にするとか、そういう考え方があってもいいのではないか。有料を継続するか、料金を引き下げるかなど施設ごとに判断すべきではないか。市は料金値上げで増収というのは、全体でどのくらい見込んでいるのか。

→回答：利用者数が変わらないと仮定して、かつ１．１倍で機械的に算定すると、現時点では全体で約２，５００万円の増収と見込んでいる。

・質問／意見：施設の耐用年数や政策目的の期間の設定が本来あるべきもので、年数が経ったら償却が終わって、その後は市民が自由に利用したり、無料にする扱いもあってしかるべきである。ただし全部を無料

にすると収入が減るので望ましくない面もあるが、特に老朽化した施設についてはそうあるべきである。市の大きな方針として、有料施設について料金をいただく方針を堅持するならそれはそれでよいが、かえってその方針が施設を一層衰退させる可能性もあるのではないか。だから、こういう点を大胆に見直してもいい時期に来ているのではないかと思う。

→回答：今後の検討課題とさせていただく。

・質問／意見：前回の会議でも意見を出したが、公の施設白書の小学校の利用者数は直した方がよい。一般の施設利用者数と異なるので、単純に児童数を利用者数とするのはおかしい。

→回答：次の改定の時に修正を検討する。

・質問／意見：一般体育館の開館時間を午後１０時まで延長する考え方は、利用者ニーズや働き方改革の観点から妥当なのか。施設管理者が午後１０時に閉館して後片付けをして帰るとなると、働き方改革なのか疑問だ。また、公の施設が避難所になることも踏まえ、エアコンの検討も必要かと思う。そういった付加価値が付けば、料金の値上げをしても良いかと思う。総合的に考えてほしい。

→回答：猛暑対策として屋内施設の利用を促進する観点からの提案である。意見については所管課に伝える。

・質問／意見：営利利用料金は現在の３倍の案より５倍で設定し、一般利用との差別化を図るべきではないか。

→回答：県内自治体では２倍程度の設定も多いが、より高い倍率を採用している事例もある。今後の見直しの参考としたい。

・質問／意見：正善寺工房の加工実習室等の使用料を引き上げると、少人数で実施する講座や体験事業の負担が大きくなり、利用者減少につながるのではないか。

→回答：対象施設は基礎的な公共サービス施設とは異なる性格もあり、１．５倍と考えている。維持管理費を踏まえた料金設定を検討しているが、利用者の声として担当課へ伝える。

・質問／意見：金谷山のボブスレーやリフトなどが平日休業となった場合でも、学校行事などで利用希望があれば対応できるのか。

→回答：これまでも学校利用の実績があり、個別に相談があれば対応可能と思われる。

・質問／意見：これは計画案でこれから諮問するのか。

→回答：現在、関係者と協議を行っているので、この内容が変わる可能性もあるということを、ご了解いただきたい。

【議題：報告事項　市民の消火栓使用について】

■ 説明

・事務局から、市民による消火栓の使用について説明が行われた。

■ 質疑応答

・質問／意見：過去には町内会の自主防災組織で、消防団の立会いのもとに消火栓の取り扱い訓練を行っていたことがあった。しかし、ある時から、市は地域住民の消火栓取扱いは危険なため中止するよう厳しく言われた経緯がある。それにもかかわらず方針を１８０度転換して使用を認める方向へ転換した理由が理解できない。

・質問／意見：市は町内会に対し、消火栓を使ってもいいが、保険もあるし自己責任で覚悟の上でやるようにと言っているように感じる。消火栓は高い水圧があり、放水は大変危険を伴うものである。消防士でも怪我をする恐れがあり、過去に消防団員が転倒して骨折をしたこともあると聞いた。山間部の消火栓は水圧が比較的低いので、やろうと思えばできるかもしれないが、直江津や高田の消火栓は水圧が高く危険なため、使用しない方がいい。市は、町内会へ危険性をよく説明するべきである。

→回答：以前から市議会や一部の地域協議会など、様々な場面で議論されており、小菅市長の就任後も市民から様々な場面で要望があったことから、改めて市民の地域を自ら守りたいという強い思いを受け止め、安全対策を講じた上で使用できる仕組みを検討したものである。

・質問／意見：市長の判断だけで方針転換したのか。担当課から市長に今までの経過や課題など十分な説明を行った上での方針転換なのか。（複数意見有り）

→回答：消防団や消防局も、十分な訓練をしていない市民の皆さんが率先して出動することは危険であると認識しているが、市民からの強い要望を受けて検討したものである。

・質問／意見：消防団員が多く、慣れている人がいる地域はまだいいが、消防団の経験者がいない町内会は、事故が起きた場合、保険があるからいいという話ではない。事故が発生した場合、使用を認めた市の責任が浮上するのではないか。（複数意見あり）

・質問／意見：私の町内会では、消火栓のそばにある備品箱が雪で壊れてしまい、危機管理課に確認したところ、一般市民が扱ってはならないと言われ、備品は消防小屋に移された。もし運用を再開するなら、備品箱を再整備してホースや突先を入れておく必要があり、経費がかなりかかってしまう。

・質問／意見：地元の消防団が万一の際にいち早く消火活動をできるよう、ホースや必要な機材を赤い箱に入れて備えてきた。それらはすべて地元の消防団や町内会が費用を負担している。

・質問／意見：今回の方針は、消火栓の使用を条件付きで認めるというだけで、実施を義務付けるものではない。糸魚川大火もあったことから、地域の判断に委ねるものであり、安全確保が可能な地域が希望する場合に取り組むということだと認識した。

・質問／意見：地域に対する説明が十分に行われているとは感じられない。危険

性や責任の所在について、危機管理部門から金谷区地域協議会へも直接説明すべきではないか。

→回答：地域へは８月５日開催の町内会長会議において既に説明を行っている。資料による周知も実施している。

【議題：自主的な審議　金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせ！！について】

■ 説明

・事務局から、金谷山についての意見交換会の開催案について説明が行われた。

■ 質疑応答

・質問／意見：日程についてだが、アクティブスポーツ協会は都合が悪く、委員としても参加できない。

→回答：承知した。

・質問／意見：関係団体に日程の調整を行ったのか。

→回答：上越若者みらい会議のみ連絡をとった。他の団体からどれだけ参加があるのかは不明だが、アンケートには協力してもらいたい。

・質問／意見：ヨーデル金谷、学校関係者、町内会等にも声掛けを行ったらどうか。（複数意見あり）

・質問／意見：高校や町内会へ突然参加を依頼すると戸惑いを招く可能性もあるため、配慮しながら調整するべきである。（複数意見あり）

・質問／意見：学校関係は、高田西小学校のみに声掛けすべきである。

・質問／意見：意見交換会をオープンにして自由参加にする考えはあるか。

→回答：会長、副会長と事務局の打合せの中では、誰でも参加できるようにすると広がりすぎるのではないかという懸念がありやめた。

・質問／意見：アンケート項目について、団体の目的や成り立ち、現在抱えてい

る課題や今後の課題なども把握できる内容を追加した方がよい。

→回答：事務局で修正を検討する。

・質問／意見：関係団体には代表者のみ参加を依頼するのか。代表者が都合により参加できない場合は、代理の参加者でもよいとするのか。

→回答：代理の参加者でもよしとする予定である。

・質問／意見：意見交換会の参加者はおおむね３０人ほどになるか。

→回答：３０人までになるかは分からないが、できるだけ大勢の方に参加してもらいたいと思っている。

■ 協議結果

・意見交換会は令和８年１０月３日（土）午前１０時から正午までを基本として準備を進めることとした。

・参加団体については、当初案に加え、高田西小学校、ヨーデル金谷を含めて調整を進めることとした。

・アンケート内容については、団体概要だけでなく、活動上の課題や今後の展望等も把握できる内容に見直した上で送付することとした。

【その他】

・次回の地域協議会：９月９日（水）午後６時３０分～

・次々回の地域協議会：１０月１４日（水）午後６時３０分～

９　問合せ先

総合政策部　地域政策課　南部まちづくりセンター

TEL　：０２５－５２２－８８３１（直通）

E-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。